

平成 30 年度
漁業担い手満足度調査 報告書

平成 31 年 4 月
岩手県農林水産部水産振興課

目 次

| | |
|--------------|----|
| I 調査の概要 | 1 |
| II 調査結果 | 3 |
| 1 「漁業担い手満足度」 | |
| 2 満足度構造分析 | |
| III 総 括 | 10 |
| 参考資料（調査票） | 13 |

I 調査の概要

1 調査の目的

本県におけるなりわいとしての漁業の魅力について、漁業者の就業に対する満足度を指標として定量化するとともに、満足度に影響を与える要因とその経年変化を明らかにし、就業環境の改善などの漁業担い手対策の参考とするもの。

2 調査設計

- (1) 調査対象 岩手県漁業士[※]（平成30年6月6日現在の名簿登載者）
※ 本県の漁業者のうち地域漁業の中核的な役割を担う者として、知事の認定を受けた者。
- (2) 調査対象者数 90人（青年漁業士19人、指導漁業士71人）
- (3) 調査方法 設問票によるアンケート調査
・ 各地区漁業士会支部総会等でのグループ調査法（5月）
・ 郵送調査法（6～7月）
- (4) 調査時期 平成30年5～7月

3 調査項目

- (1) 「漁業担い手満足度」
(2) 個別満足度（「漁業担い手満足度」の要因を分析するための35項目）

4 実施主体 岩手県農林水産部水産振興課

5 回収結果

- (1) 有効回収数 63人（男性56人、女性6名、未回答1名）
(2) 回収率 69.2%

6 報告書の見方

- (1) グラフ中の「n」は、各項目の回答者数を表す。
(2) 回答の構成比は、各項目の回答者数を基数として小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、数値の合計が100.0%にならない項目がある可能性がある。
(3) 「漁業担い手満足度」は、次の式により求めた。

$$\text{総合満足度（平均点）} = \frac{(\text{「非常に満足」} \times 3 \text{点}) + (\text{「満足」} \times 2 \text{点}) + (\text{「やや満足」} \times 1 \text{点}) + (\text{「ふつう」} \times 0 \text{点}) + [\text{「やや不満」} \times (-1 \text{点})] + [\text{「不満」} \times (-2 \text{点})] + [\text{「非常に不満」} \times (-3 \text{点})]}{(\text{全回答者数})}$$

この方法では、平均点は-3.00点～3.00点の範囲となり、中間点は0.00点となる。

【参考：設問の構成】

◆ 「漁業担い手満足度」

| 項目 | 設問 | 評価基準※ |
|-------|---|---|
| 総合満足度 | あなたは、総合的に考えて、漁業者として働いていることどの程度満足していますか。 | 7段階評価 ①非常に満足 ②満足 ③やや満足 ④ふつう ⑤やや不満 ⑥不満 ⑦非常に不満 |

※ 集計において、3点(非常に満足)～1点(非常に不満)で採点し、平均点を算出した。

◆ 個別項目 (35項目)

◆ 個別項目 (35項目)

| 区分 | 要因区分 | 番号 | 項目 | 設問 | 評価基準 |
|--------------------------|--------------|------|----------------|-------------------------------------|--|
| あれば満足が増大する要因 (動機付け要因) | 仕事 | (1) | やりがい | 漁業にやりがいを感じている。 | 4段階評価 ①そう思う ②まあそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない |
| | | (2) | 将来への希望 | 漁業者としての自分の将来に希望を感じている。 | |
| | | (3) | 責任感 | 国民に食料を供給する責任ある仕事だと思う。 | |
| | | (4) | 能力の活用 | 自分の能力が活かせる仕事だと思う。 | |
| | | (5) | 生産物・地域ブランドへの誇り | 自分の生産物や地域ブランドに誇りをもっている。 | |
| | | (6) | 自然との調和 | 自然に恵まれた環境での仕事だと思う。 | |
| | | (7) | 継続意欲 | 定年が無く、体力と意欲が続く限り働き続けられる。 | |
| | 自己の成長 | (8) | 成長期待 | 仕事を通じて人として成長できると思う。 | 同上 |
| | | (9) | 自己啓発 | 能力向上(試験、研究、研修、講習会等)の機会に恵まれている。 | |
| | 経営目標 | (10) | 経営目標 | 自分には明確な経営目標がある。 | 同上 |
| | | (11) | 経営規模の拡大志向 | 現在の漁業経営の規模を拡大したい。 | |
| | | (12) | 共同生産への興味 | 他の漁業者との共同生産に興味がある。 | |
| | 他の漁業者との関係 | (13) | 後継者 | 後継者がいる(見込みを含む)。 | 同上 |
| | | (14) | 尊敬できる漁業者 | 地域に尊敬できる漁業者がいる。 | |
| | | (15) | 漁業者間の信頼 | 必要ときに他の漁業者に相談できる環境にある。 | |
| | 地域住民や消費者との関係 | (16) | 就業希望者への支援 | 地域には漁家子弟や未経験者の漁業就業を支援できる環境がある。 | 同上 |
| | | (17) | 地域とのつながり | 近隣住民とのつきあいが多く、地域とのつながりが深い。 | |
| | | (18) | 伝統・文化 | 地域の郷土食や祭り等の伝統や文化を大切にしている。 | |
| | | (19) | 消費者とのつながり | 消費者と対話する機会を確保している。 | |
| なければ不満を感じる要因 (衛生要因) | 漁協との関係 | (20) | 漁協への帰属意識 | 所属する漁協の組合運営や経営方針に共感している。 | 同上 |
| | | (21) | 漁協の目指す姿 | 所属する漁協の目指す姿(「地域再生営漁計画」等)を理解している。 | |
| | | (22) | 漁業秩序の維持 | 地域の漁業者はルールを守って操業している。 | |
| | | (23) | 漁業権行使 | 十分な漁業権の行使機会に恵まれている。 | |
| | | (24) | 漁協への信頼 | 必要ときに漁協に相談できる環境にある。 | |
| | 労働条件 | (25) | 役割の発揮 | 地域には年齢、経験、性別に応じて漁業生産の役割を発揮できる環境がある。 | 同上 |
| | | (26) | 仕事量 | 現在の自分の仕事量は、妥当なレベルだと思う。 | |
| | | (27) | 労働時間 | 現在の自分の労働時間は妥当なレベルだと思う。 | |
| | | (28) | 休日・休暇 | 休日や休暇は満足いくレベルで取得できている。 | |
| | | (29) | 労働力 | 漁業生産のための十分な労働力が確保できている。 | |
| | | (30) | 設備・機器 | 漁業生産のための十分な設備・機器が整っている。 | |
| | 収入 | (31) | 漁場環境 | 漁場の生産環境は良好である。 | 同上 |
| | | (32) | 単価水準 | 生産物の単価は妥当な水準だと思う。 | |
| | | (33) | 評価基準 | 生産物の評価基準や評価体系は明確だと思う。 | |
| | | (34) | 収入水準 | 現在の自分の収入は妥当な水準だと思う。 | |
| | | (35) | 努力の反映 | 自分の努力は収入に反映されていると思う。 | |

Ⅱ 調査結果

1 回答者の属性

| 男女別 | 回答者数 | 構成比 |
|-----|------|-------|
| 男性 | 56 | 88.9% |
| 女性 | 6 | 9.5% |
| 未回答 | 1 | 1.6% |

| 漁業士区分別 | 回答者数 | 構成比 |
|--------|------|-------|
| 青年漁業士 | 16 | 25.4% |
| 指導漁業士 | 46 | 73.0% |
| 未回答 | 1 | 1.6% |

| 年齢階層別 | 回答者数 | 構成比 |
|-------------|------|-------|
| 30代(30～39歳) | 7 | 11.1% |
| 40代(40～49歳) | 16 | 25.4% |
| 50代(50～59歳) | 20 | 31.7% |
| 60代(60～66歳) | 18 | 28.6% |
| 未回答 | 2 | 3.2% |

| 主な漁業種類別 | 回答者数 | 構成比 |
|---------|------|-------|
| 漁船漁業 | 9 | 14.3% |
| 養殖業 | 38 | 60.3% |
| 採介藻漁業 | 9 | 14.3% |
| その他 | 3 | 4.8% |
| 未回答 | 4 | 6.3% |

| 地区別 | 回答者数 | 構成比 |
|-----|------|-------|
| 県北 | 15 | 23.8% |
| 宮古 | 19 | 30.2% |
| 釜石 | 12 | 19.0% |
| 大船渡 | 16 | 25.4% |
| 未回答 | 1 | 1.6% |

| 年収階層別 | 回答者数 | 構成比 |
|------------|------|-------|
| ～200万円未満 | 6 | 9.5% |
| ～400万円未満 | 8 | 12.7% |
| ～600万円未満 | 8 | 12.7% |
| ～800万円未満 | 7 | 11.1% |
| ～1,000万円未満 | 5 | 7.9% |
| 1,000万円以上 | 26 | 41.3% |
| 未回答 | 3 | 4.8% |

1 「漁業担い手満足度」

ア 構成比

「非常に満足」～「やや満足」の回答者の割合は 55.6%（平成 29 年度比 11.1 減）と、低下しています（図 1）。

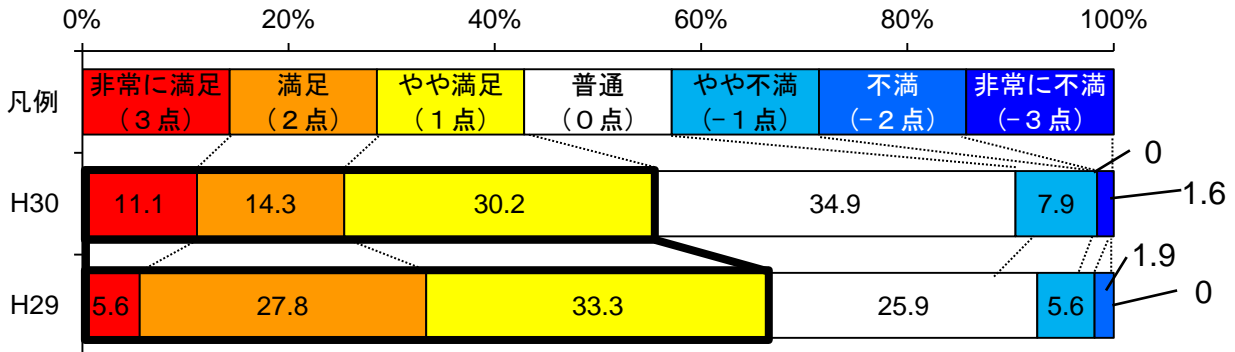


図 1 漁業担い手満足度の年度別構成比

イ 回答者全体

「漁業担い手満足度」は 0.79 点（平成 29 年度比 0.17 点減）と、低下しています（図 2）。

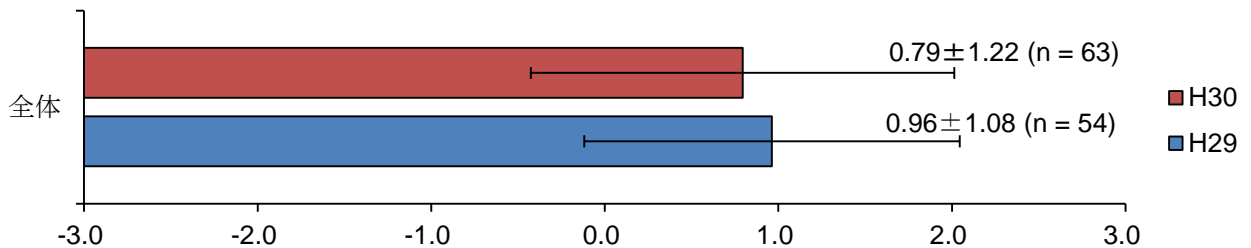


図 2 回答者全体の「漁業担い手満足度」

図中の数値は平均±標準偏差、()内は有効回答者数を表す。

ウ 漁業種の別

「漁船漁業」は 1.22 点、「養殖業」は 0.82 点、「採介藻漁業」は 0.33 点、となり、平成 29 年度に比べると、「漁船漁業」はほぼ横ばい（0.03 点減）、「養殖業」と「採介藻漁業」は低下（それぞれ 0.23 点減、0.17 点減）しました（図 3）。

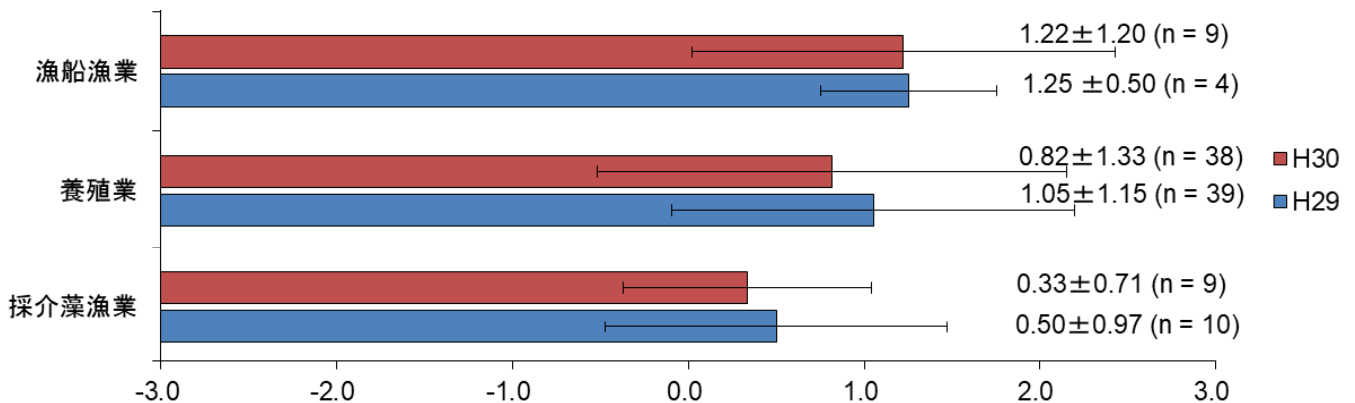


図 3 「漁業種別」の「漁業担い手満足度」

図中の数値は平均±標準偏差、()内は有効回答者数を表す。

2 満足度構造分析

ア 回答者全体

◆ 「漁業担い手満足度」に関する要因

「漁業担い手満足度」に関する要因を明らかにするため、35の個別項目について満足度の高さを4段階で評価いただき、それぞれの個別項目の評価と「漁業担い手満足度」との関係の強さ（相関関係）を分析しました。

分析の結果、「やりがい」、「能力の活用」、「継続意欲」、「成長期待」、「経営目標」、「収入水準」、「努力の反映」及び「将来への希望」の8項目の評価が、「漁業担い手満足度」に影響を与えることが分かりました（図4）。このうち、「やりがい」、「能力の活用」、「継続意欲」、「成長期待」、「経営目標」、「収入水準」及び「努力の反映」については、個別項目の評価が高いことから、平成30年度調査の「重要項目」と位置づけました。一方、「将来への希望」については、個別項目の評価が低下していたことから、「課題項目」と位置づけました。

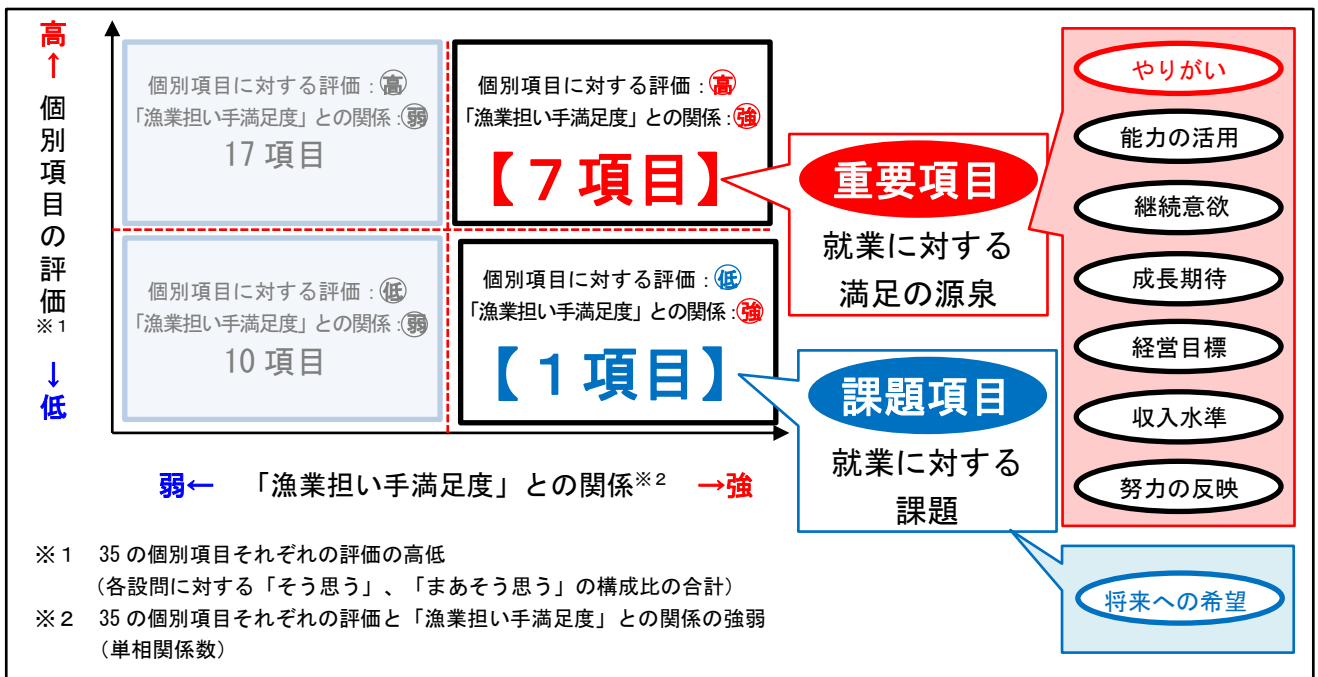


図4 「漁業担い手満足度」に関する要因

◆ 重要項目及び課題項目に係る平成 27～30 年度調査結果の比較

平成 27～30 年度までの調査結果において、「やりがい」と「将来への希望」の 2 項目は、連続して「漁業担い手満足度」との関係が強い項目でした（図 5）。

また、平成 30 年度と平成 27～29 年度調査結果の重要項目を比較すると、「能力の活用」、「成長期待」、「経営目標」及び「努力の反映」の 4 項目は、過去の調査においても、変わらず重要項目として位置づけられていました。以上 6 項目は、総合的な満足度の「核」となる要素であり、「漁業担い手満足度」を高めるためには、これらの項目の評価を向上・維持するような施策が必要であると考えられます。

また、平成 29 年度調査の重要項目である 9 項目のうち、5 項目が平成 30 年度調査の重要項目から外れ、新たに 3 項目が加わっており、「漁業担い手満足度」と関係性の強い項目が大きく変化したと言えます。こうした変化の要因については、各項目間の関係性をさらに分析し、対応を検討していく必要があると考えています。

| 調査年度 | 平成 27 年 | 平成 28 年 | 平成 29 年 | 平成 30 年 |
|------|-----------|---------|---------|---------|
| 重要項目 | 9項目 | 6項目 | 9項目 | 7項目 |
| | やりがい | やりがい | やりがい | やりがい |
| | 能力の活用 | - | 能力の活用 | 能力の活用 |
| | 成長期待 | 成長期待 | - | 成長期待 |
| | 経営目標 | - | 経営目標 | 経営目標 |
| | 努力の反映 | - | 努力の反映 | 努力の反映 |
| | - | 将来への希望 | 将来への希望 | - |
| | 仕事量 | 仕事量 | - | - |
| | 労働時間 | 労働時間 | - | - |
| | 地域とのつながり | - | - | - |
| | 住環境 | 住環境 | - | - |
| | - | - | 生産物への誇り | - |
| | - | - | 自己啓発 | - |
| | - | - | 漁業者間の信頼 | - |
| | - | - | 漁協への信頼 | - |
| | - | - | - | 収入水準 |
| - | - | - | 継続意欲 | |
| 課題項目 | 3項目 | 該当なし | 該当なし | 1項目 |
| | 将来への希望 | - | - | 将来への希望 |
| | 収入水準 | - | - | - |
| | 経営規模の拡大志向 | - | - | - |

満足度の「核」となる要素

図 5 H27～H30 年度調査における重要項目及び課題項目の変遷

◆ ワースト5項目

35項目のうち、個別項目の評価が低いものは、順に「共同生産への興味」、「消費者とのつながり」、「就業希望者への支援」、「後継者」及び「経営規模の拡大志向」となりました。なお、これら5項目は平成29年度調査においても、個別項目の評価のワースト5項目となっていました（図6）。

これらの項目は、「漁業担い手満足度」との関係は弱いものの、今後の漁業生産量の維持増大に係る項目や新規漁業就業者の確保に関する重要な項目です。評価の低い要因をさらに分析し、適切な対策を立て、評価の向上に努める必要があると考えています。

| | 平成27年 | 平成28年 | 平成29年 | 平成30年 | 前回調査との比較 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|--|
| 経営規模の拡大志向 | 0.37 | 0.46 | 0.26 | 0.44 | 向上  |
| 共同生産への興味 | 0.37 | 0.35 | 0.42 | 0.27 | 低下  |
| 後継者 | 0.38 | 0.42 | 0.45 | 0.39 | 低下  |
| 就業希望者への支援 | 0.33 | 0.34 | 0.36 | 0.39 | 向上  |
| 消費者とのつながり | 0.33 | 0.38 | 0.39 | 0.33 | 低下  |

図6 ワースト5項目の個別満足度評価の推移

イ 漁業種の別（H30）

35の個別項目を8つの要因区分（p. 2の【設問の構成】を参照）で再分類し、「漁業担い手満足度」に対して影響の大きな要因を調べたところ（図7）、全漁業種において「仕事」が重要な要因区分となりましたが、それ以外の要因については、以下のような傾向が見られました。

- ・「漁船漁業」では、「収入」が重要な要因区分となっています。
- ・「養殖業」では「自己の成長」他2つが重要な要因区分となっています。
- ・「採介藻漁業」では、「漁協との関係」他4つが重要な要因区分となっているほか、「収入」及び「経営目標」の要因区分が課題となっています。

漁業種毎に個別項目の評価を平成29年度と比較すると、「漁船漁業」では「共同生産への興味」や「労働時間」等の項目で増加の傾向が見られました。一方、「採介藻漁業」では「収入水準」をはじめ、多くの項目で評価が低下しました。

「就業希望者への支援」の項目は、「漁船漁業」及び「養殖業」では評価の上昇が見られた一方、「採介藻漁業」では評価が大きく低下していました。

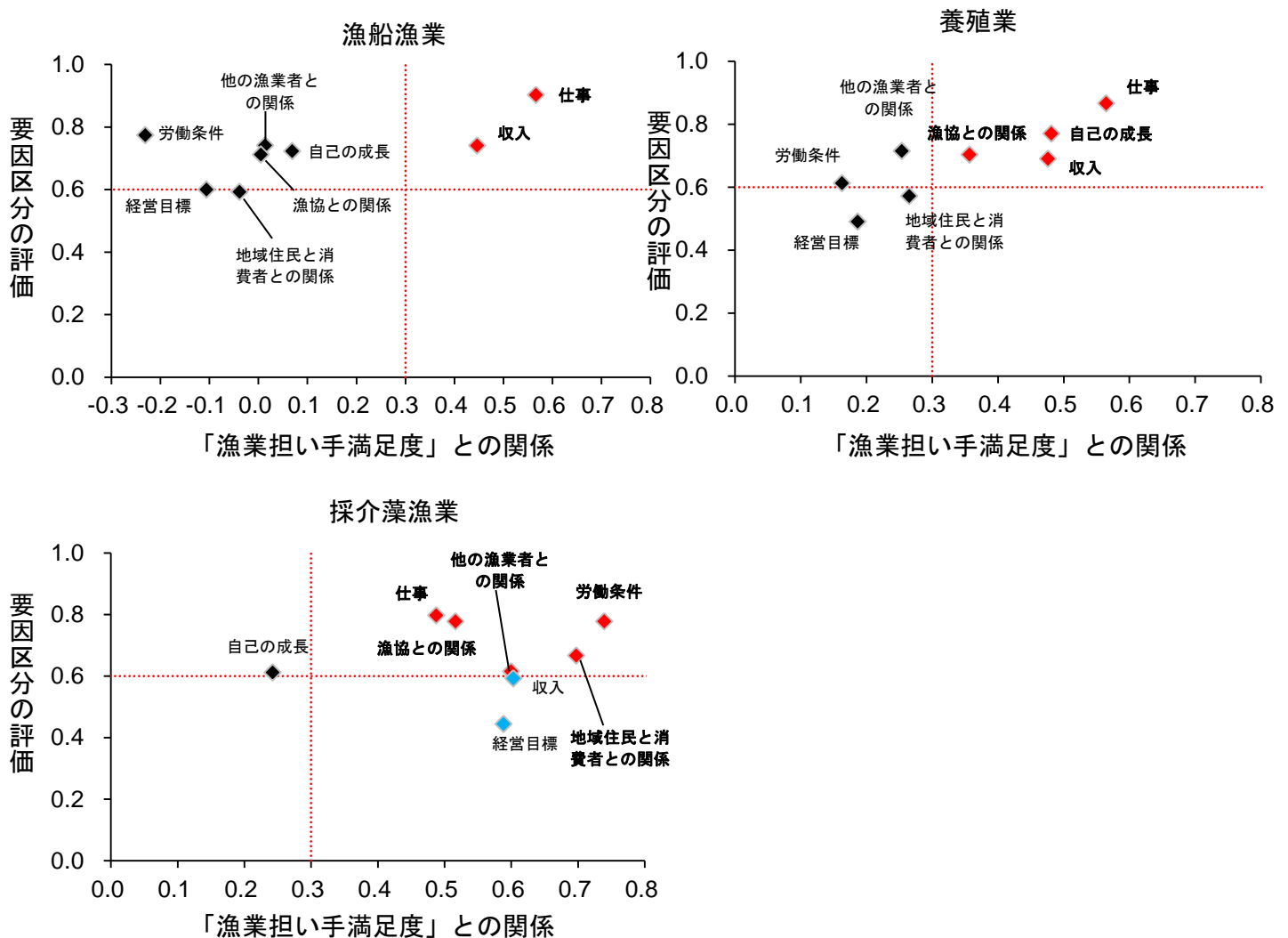


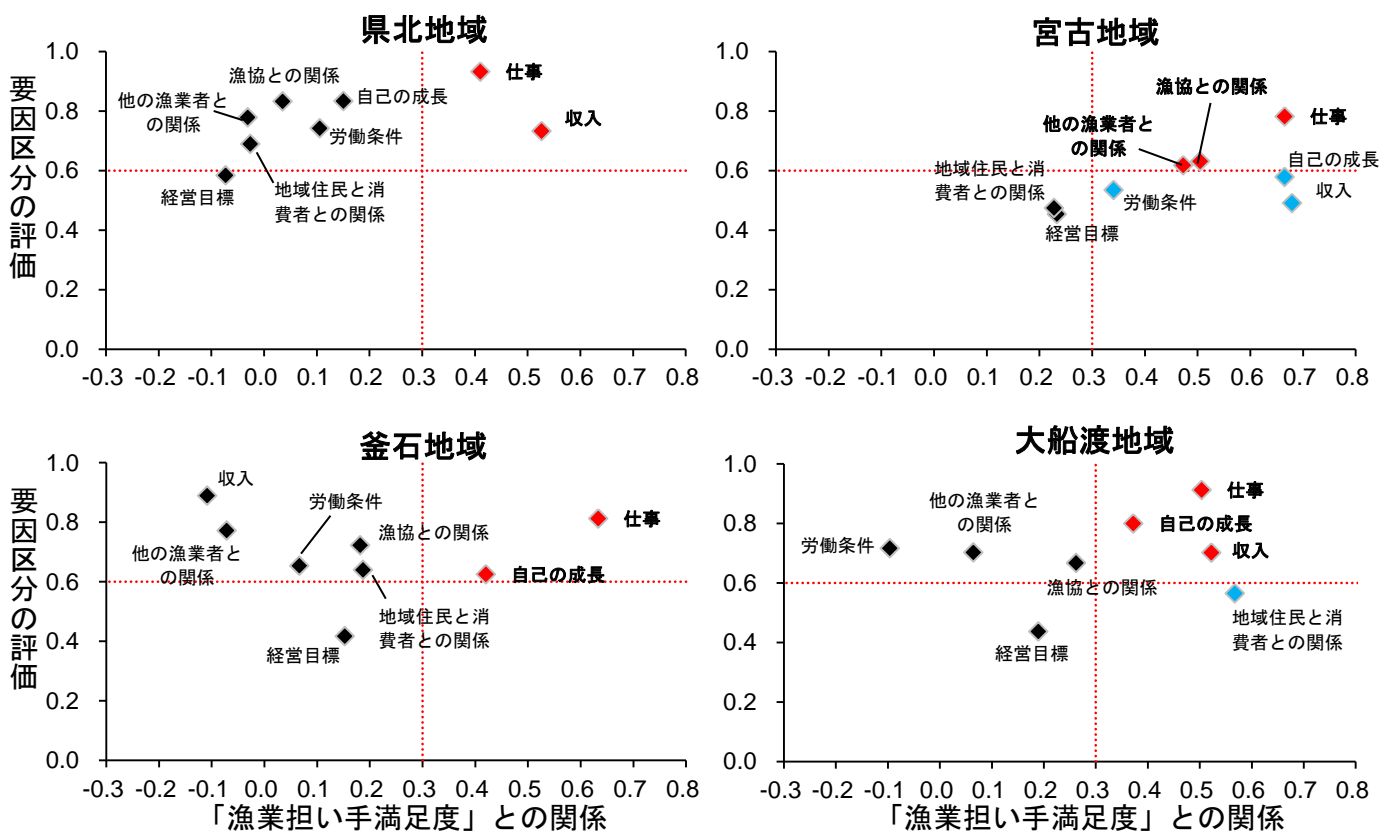
図7 漁業種別の構造分析（要因区分）と特徴

図中の菱形（◆）は要因区分を表し、赤色（◆）が重要な要因、青色（◆）が課題となる要因区分を示す。

ウ 地域の別

回答者の所属漁協から沿岸4地域（県北、宮古、釜石、大船渡）に分類し、「漁業担い手満足度」に対して影響の大きな要因を調べたところ（図8）、全ての地域において「仕事」が重要な要因区分となりましたが、それ以外の要因区分については、地域ごとに異なる傾向が見られました。

- ・ 県北地域では、「収入」が重要な要因区分となっています。
- ・ 宮古地域では、「漁協との関係」及び「ほかの漁業者との関係」が重要な要因区分となっているほか、「自己の成長」他2つの要因区分が課題となっています。
- ・ 釜石地域では、「自己の成長」が重要な要因区分となっています。
- ・ 大船渡地域では、「自己の成長」及び「収入」が重要な要因区分となっています。



| | 重要な要因区分 | 満足が低い要因区分 |
|-----|----------------------|---------------------------------|
| 県北 | 収入、仕事 | 経営目標 |
| 宮古 | 仕事、漁協との関係、ほかの漁業者との関係 | 収入、労働条件、自己の成長、経営目標、地域住民と消費者との関係 |
| 釜石 | 仕事、自己の成長 | 経営目標 |
| 大船渡 | 収入、仕事、自己の成長 | 地域住民と消費者との関係、経営目標 |

図8 地域別の要因区分における構造分析

図中の菱形（◆）は要因区分を表し、赤色（◆）が重要な要因、青色（◆）が課題となる要因区分を示す。

Ⅲ 総括

1 「漁業担い手満足度」について

ア 回答者全体

0.79点（平成29年度比0.17点減）と、低下しています。本年度のアンケート調査は例年より早く5～7月に実施しましたが、ホタテガイ等の貝毒による出荷規制時期と重なり、貝毒の影響による養殖業経営に対する先行きの不安感や、アワビ等の主要漁獲物の不漁による経済的な影響等を反映したものと考えられます。

イ 「漁業種」の別

「漁船漁業」が1.22点（平成29年度比0.03点減）とほぼ横ばいである一方で、「養殖業」は0.82点（同0.23点減）、「採介藻漁業」が0.33点（同0.17点減）と低下しました。

昨年度の数値と比較すると、「養殖業」及び「採介藻漁業」が低下しており、貝毒による出荷規制や近年のアワビ等の不漁による各漁業種への悪影響が表れたものと考えられます。一方、「漁船漁業」では、上記の悪影響が評価にはあまり表れず、「漁業担い手満足度」への影響が軽微であったと考えられますが、サンマやスルメイカ等、主要魚種の不漁は依然として深刻であり、引き続き注視する必要があります。

2 満足度構造分析について

ア 回答者全体

35の個別項目のうち、「やりがい」、「能力の活用」、「継続意欲」、「成長期待」、「経営目標」、「収入水準」、「努力の反映」及び「将来への希望」の8項目の評価が、「漁業担い手満足度」に強い影響を与えることが分かりました。個別項目の評価が高い「やりがい」、「能力の活用」、「継続意欲」、「成長期待」、「経営目標」、「収入水準」、「努力の反映」の7項目を平成30年度調査の「重要項目」と位置づけましたが、「やりがい」以外の6項目については、平成29年度調査と比べ評価が低下していました。

「やりがい」及び「将来への希望」の2項目は、平成27～30年度の調査結果において、連続して「漁業担い手満足度」との関係が強い項目であり、漁業就業に対する総合的な満足度を特に左右する最も重要な要因と考えられておりますが、平成30年度調査では「将来への希望」の評価が大幅に低下していることから、「課題項目」として位置づけられており、改善する必要があると考えています。

また、平成30年度と平成27～29年度の調査結果を比較すると、「能力の活用」、「成長期待」、「経営目標」及び「努力の反映」の4項目は、過去の調査でも重要項目として位置づけられており、「やりがい」と「将来への希望」を含めた6項目は、総合的な満足度の「核」となる要素と考えられます。

一方で、平成 29 年度調査の重要項目である 9 項目のうち 5 項目が平成 30 年度調査の重要項目から外れ、「継続意欲」、「成長期待」及び「収入水準」の 3 項目が新たに加わりました。貝毒による出荷規制や主要魚種の不漁による収入の減少等の影響で、漁業経営の悪化に対する懸念がひっ迫し、「継続意欲」や「収入水準」等、当面の経営に直結する項目の影響度が上がったことが、平成 30 年度調査における重要項目の変化の一因と考えられます。このように「漁業担い手満足度」と関係性の強い項目が大きく変化する要因については、各項目間の関係についてさらなる分析を行い、対応を検討していく必要があります。

イ 「漁業種」の別

全漁業種に共通して「仕事」の要因区分について、「漁業担い手満足度」と強い関係が見られましたが、その他の項目については、影響を与える要因区分に違いが見られました。「漁船漁業」では「収入」を、「養殖業」では「自己の成長」、「漁協との関係」及び「収入」を、「採介藻漁業」では「漁協との関係」、「労働条件」、「他の漁業者との関係」及び「地域住民や消費者との関係」を重要視する傾向が見られました。

各項目の評価を平成 29 年度調査の評価と比較すると、「漁船漁業」では「経営目標」及び「労働条件」の要因区分に属する複数の項目で評価の上昇が見られ、なりわいの再建や就業環境の向上が進んでいると考えられます。

一方、「養殖業」及び「採介藻漁業」では「収入」の要因区分に属する項目を中心に評価が低下した項目が多く、広域的な貝毒の発生やアワビの記録的な不漁等が影響していると考えられ、それぞれの課題の解消に取り組む必要があると考えられます。

また、「採介藻漁業」では他の漁業種と異なり、「就業希望者への支援」をはじめとする「他の漁業者との関係」の要因区分に属する項目の評価が大きく低下しており、漁業の担い手不足について大きな危機感を抱いていることがうかがえます。

ウ 地域の別

「仕事」に関する「漁業担い手満足度」が高い傾向は各地域で同じでしたが、平成 29 年度調査と同様に、4 地域毎に異なる傾向が見られました。県北地域は「収入」を、釜石地域は「自己の成長」を、大船渡地域ではその両方を重要視する傾向が見られました。宮古地域では、「漁協との関係」や「他の漁業者との関係」を重要視する傾向が見られました。

また、宮古地域と大船渡地域では、評価が低く課題となる要因区分があり、宮古地域では「収入」、「労働条件」及び「自己の成長」、大船渡地域では「地域住民と消費者との関係」の要因区分が課題として示されました。また、各地域で評価の低い要因区分として、「経営目標」が挙げられました。これらのことから、地域に関わらず、仕事のやりがいや収入面が漁業者の意欲を支える大きな要因となっていますが、それらの評価を維持・向上しつつ、地域毎に課題となる要因を解消する施策を行う必要があると考えられます。

3 今後の対応等について

県では新規漁業就業者の確保・育成のため、平成31年4月9日に「いわて水産アカデミー」を開講しましたが、こうした担い手育成に対する取組みに対する前向きな意見や、担い手の受入れ体制の整備を期待する意見を複数いただきました。一方で、貝毒対策や漁業就業者に対する補助金制度など、現行の課題に対する政策が不十分であるという厳しい意見も聞かれました。

平成30年度調査では、過去の調査において最重要の要因とした「将来への希望」について、大幅に評価が低下したことから、「将来の希望」を「課題項目」として位置づけ、重点的に対策を立てる必要があると考えています。また、平成27～30年度の調査結果から、「漁業担い手満足度」への影響度が高い傾向が見られた6項目を、総合的な満足度の「核」となる要素と位置づけ、これらの項目の評価を向上・維持するような施策を行っていく必要があると考えています。

県は、今回の調査結果を漁協や市町村と共有し、平成31年度の担い手対策に取り組んでいくこととしています。

(別紙) 平成 30 年度 漁業担い手満足度調査【調査票】

本県の漁業就業者は、後継者不足と相まって高齢化と減少が続いており、新規就業者の確保が喫緊の課題です。本調査は、課題を解決するにあたり、漁業者の先達である岩手県漁業士の皆さんを対象に日々の仕事に対する満足度やその源泉を把握し、本県における漁業就業の魅力として誇れるもの、不足しているものとして整理し、その結果を関係者と共有することで、漁家子弟や未経験者の漁業就業への動機付けのほか、就業環境の改善を図るための参考とするものです。

本調査の趣旨を御理解いただき、御協力をお願いします。

- ※ 本調査で得た情報については、目的以外には使用しません。
また、集計結果のみを使用するため、個人情報がそのまま外部に漏れることはありません。

◆ 漁業に関係するさまざまな項目について、あなたの満足度をお伺します。

問 1. あなたは、総合的に考えて、漁業者として働いていることにどの程度満足していますか。
あてはまる番号に○印をつけてください。



問 2. 次の各項目について、どのように感じていますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

| | 1 | 2 | 3 | 4 |
|-------------------------------------|---|---|---|---|
| (1) 漁業にやりがいを感じている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (2) 漁業者としての自分の将来に希望を感じている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (3) 国民に食料を供給する責任ある仕事だと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (4) 自分の能力が活かせる仕事だと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (5) 自分の生産物や地域ブランドに誇りをもっている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (6) 自然に恵まれた環境での仕事だと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (7) 定年が無く、体力と意欲が続く限り働き続けられる。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (8) 仕事を通じて人として成長できると思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (9) 能力向上（試験、研究、研修、講習会等）の機会に恵まれている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (10) 自分には明確な経営目標がある。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (11) 現在の漁業経営の規模を拡大したい。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (12) 他の漁業者との共同生産に興味がある。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (13) 後継者がいる（見込みを含む）。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (14) 地域に尊敬できる漁業者がいる。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (15) 必要なときに他の漁業者に相談できる環境にある。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (16) 地域には漁家子弟や未経験者の漁業就業を支援できる環境がある。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (17) 近隣住民とのつきあいが多く、地域とのつながりが深い。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (18) 地域の郷土食や祭り等の伝統や文化を大切にしている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (19) 消費者と対話する機会を確保している。 | 1 | 2 | 3 | 4 |

【次ページもあります】

| | そう思う | まあそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
|--|------|--------|-----------|--------|
| (20) 所属する漁協の組織運営や経営方針に共感している。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (21) 所属する漁協の目指す姿（「地域再生営漁計画」等）を理解している | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (22) 地域の漁業者はルールを守って操業している。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (23) 十分な漁業権の行使機会に恵まれている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (24) 必要なときに漁協に相談できる環境にある。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (25) 地域には年齢、経験、性別に応じて漁業生産の役割を發揮できる環境がある。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (26) 現在の自分の仕事量は妥当なレベルだと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (27) 現在の自分の仕事時間は妥当なレベルだと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (28) 休日や休暇は満足いくレベルで取得できている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (29) 漁業生産のための十分な労働力が確保できている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (30) 漁業生産のための十分な設備・機器が整っている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (31) 漁場の生産環境は良好である。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (32) 生産物の単価は妥当な水準だと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (33) 生産物の評価基準や評価体系は明確だと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (34) 現在の自分の収入は妥当な水準だと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (35) 自分の努力は収入に反映されていると思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |

◆ 平成 31 年度から設立される（仮称）いわて水産アカデミー※や新規漁業就業者の確保・育成のための御提案や御意見がありましたら記入してください。

※地域内外から漁業就業希望者を集め、漁業就業に必要な知識や技術を習得することができる研修機関。

◆ あなたご自身のことについてお伺いします。各項目にお答え願います。

| | | |
|----------------------|--|-----------------------------|
| ・ 所属地域 | 県北 ・ 宮古 ・ 釜石 ・ 大船渡 | ※どれかに1つに○ |
| ・ 属 性 | 指導漁業士 ・ 青年漁業士 | ※どちらかに○ |
| ・ 性 別 | 男 ・ 女 | ※どちらかに○ |
| ・ 年 齢 | 20～29 歳 ・ 30～39 歳 ・ 40～49 歳 ・ 50～59 ・ 60 歳以上 | ※どれかに1つに○ |
| ・ 漁業就業年数 | _____ 年 | ※家族従事者（手伝い）としての就業期間も含めた通算期間 |
| ・ 主な漁業種類 | 漁船漁業 ・ 養殖業 ・ 採介藻漁業 ・ その他 | ※主なもの1つに○ |
| ・ 年間収入 （平成 29 年度） | 200 万円未満 ・ 200～400 万円未満 ・ 400～600 万円未満 ・ 600～800 万円未満 ・ 800～1000 万円未満 ・ 1000 万円以上 | ※どれかに1つに○ |
| | （漁業外収入を含む） | |

設問は以上です。御協力ありがとうございました。

平成 30 年度 漁業担い手満足度調査結果報告書

平成 31 年 4 月

岩手県農林水産部水産振興課

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸 10-1

電 話 019-629-5819 F A X 019-629-5824